

就活応援特集 (4~5面に掲載)

先輩からのメッセージ
高齢者・保育部門の若手、中堅各2名のスタッフ熱く語る
就職フェアセミナーでケアワーカー介護の魅力発信
「あなたが広げる福祉の可能性」

巻頭言／災害緊急時の事業の運営方法・手段など 重要かつ不可欠な事業継続計画を	2
緊急時安否確認の「かぎ預かり」 吹田竜ヶ池ホーム	3
地域交流型の本格トレセン開設 岩戸ホーム	3
河川の氾濫に備え避難訓練 認定こども園一津屋愛育園	3
魅力ある園づくりにチームカアアップを一保育・部下指導研修	4
将来を担う経営的視点を育てる—高齢・京都エリア特別企画合同研修	5
頼もしい援軍学生ボランティア 東生野愛育園夏まつり	6
「音楽にふれあう科」の受講生、せつつ桜苑ご入居者を訪問	7
トピックス	8



スリルと自然美 保津川下りで“日本の夏”満喫 ベトナム人留学生アルバイトを労う

【せつつ桜苑-2名】【吹田竜ヶ池ホーム-4名】

ベトナム人留学生のアルバイト(せつつ桜苑2名、吹田竜ヶ池ホーム4名)を労う親睦ツアー「保津川下り」を実施(8月27日)、スリルと自然美の舟下りを体験しました。

京都・亀岡市の乗船場から約90分、スピード感と水しぶきに悲鳴をあげる留学生も。船頭さんとの会話や清流に鳴くかじかの涼しい声、嵯峨野トロッコ列車から手を振る観光客—“日本の夏”を満喫しました。



昆虫館で巨大ミツバチに目をみはる 羽化したばかりの放チョウ体験



ココリス(放課後等デイサービス)は夏休みを利用して伊丹市昆虫館(7月29日)と貝塚市の明治の森なほドファクトリー関西(8月22日)へ出かけました。

昆虫館では200倍の巨大ミツバチ「ビッグビー」のリアルな模型に目をみはる子も。チョウ温室では「さなぎ」から羽化したばかりのチョウが手のひらから飛び立つ放チョウを体験しました。

和太鼓で地域を元気に

認定こども園正雀愛育園の5歳児は摂津まつり(8月3日)と摂津市老人福祉大会(9月13日)で和太鼓を披露。大きな舞台で力強く演奏、保護者や地域の方から声援や拍手が寄せられました。同園は4歳児から和太鼓を指導。礼(挨拶)に始まり、ばちの持ち方などを学び、リズム打ち息を合わせることを身につけます。和太鼓を通し地域を明るく元気にするのが願いです。



五月山動物園へ1歳児合同の遠足

きりん夜間愛育園と第二愛育園分園ひよこ園の園児(1歳児13名)は9月27日、池田市立五月山動物園へ遠足に出かけました。朝から秋晴れ。動物園ではウオナバット、ヤギ、ヒツジ、ブタ、エミュー、ポニーなどが子どもたちをお出迎え。餌やりで見たことのない動物が接近し大興奮でした。その後、お母さんの手作り弁当を美味しく食べていました。



〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔老人施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2019年11月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



災害緊急時の事業の運営方法・手段など 重要かつ不可欠な事業継続計画を

理事長 高岡 國士

社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、日々ご
ろから皆様の多大なご協力とお力添えをいただき
感謝とお礼を申し上げます。

台風19号禍に政府も生活再建支援

台風19号による暴風・大雨で河川の氾濫など甚
大な被害を受け、未だに避難所生活を強いられ
ている方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も
早い日常生活への復帰を祈念申し上げます。

ちょうど1年前の「ききょう」秋号の巻頭言でと
りあげましたが、平成30年6月の大阪北部地震に
続き、7月の西日本豪雨、9月の台風21号による風
水害が発生し、各地に大きな被害をもたらしたこ
とは記憶に残る1年になるのではないかと書きまし
た。今年も残念ながら、関東・東日本を中心に見
舞った大雨をともなう台風の影響により、河川氾
濫など大規模な被害を被り、特にライフラインの停
止や交通の遮断など地域住民の生活に深い傷跡を
残しました。

政府も10月18日の閣議で「特定非常災害」指定
し、生活や生業(なりわい)の再建を後押しする生
活再建支援に乗り出しています。また、厚生労働省
から社会福祉施設などへの周知文書で、避難勧告
などの発令について、防災情報を5段階の警戒レベ
ルによりとるべき行動の対応が明確化され、住民ら
が情報の意味を直感的に理解できるようになりま
した。

「ご利用者の安全確保へ避難対策を再点検
成光苑では、大阪と京都に高齢障がい部門、保
育部門合わせて75の事業所を運営していますが、
社会福祉施設などは自力避難が困難な高齢者障
がい者・子どもも多く利用されていることから、ご
利用者の安全を確保するために、地震・豪雨・内水
氾濫など各種災害に備えた十分な避難対策の再
点検が必要と考えています。

近年の台風は想定外の風水害をもたらすことか
ら、電車など公共交通機関では早期に計画運休が
実施されていますが、介護施設などの従事者や保
育者の通勤への影響も無視できません。法人(園・
施設)が自然災害などの緊急事態に遭遇した場
合、損害を最小限にとどめつつ、中核事業の継続、
早期復旧を可能とするために、事業継続計画
(BCP)として、平時の活動や緊急時における事
業継続の方法、手段などを決めておくことが重要
かつ必要不可欠と考えます。

処遇改善を講じ「人財」の育成・定着を図る

10月1日から消費税が10%に引き上げられまし
た。消費税率の引き上げ(8%↓10%)による増収

分を財源に、わが国の社会保障制度を全世代型へ
と大きく転換させようとしています。第200臨時
国会の首相所信表明演説の中で「子育て世代の負
担を減らす」と幼児教育・保育の無償化が表明さ
れました。また、高齢化社会に対応して70歳まで就
業できる環境を整え「子どもからお年寄りまで全
ての世代が安心できる社会保障制度を大胆に構
想する」と述べています。

これらのことから、当法人では、介護機能の多様
化を図ることでご利用者に対する総合的なサービ
スを提供する一方、地域子育て支援を積極的に行
い、女性が安心して子どもを出産し、育て、その成
長を喜ぶ社会の実現に寄与してまいります。

また、社会福祉法人の本旨に則り、社会福祉事
業にかかる福祉サービスの供給確保の中心的役割
を果たすだけでなく、既存の制度の対象とならない
サービスの提供、つまり地域における公益的な取り
組みを継続していくことが重要と認識し、介護職
や保育士の処遇改善を講じるなど「人財」の確保・
育成・定着対策を図り、介護サービスや保育内容の
質の維持・向上に努めているところであります。

地域のご利用者、ご家族や社会福祉関係者をは
じめ皆様の信頼をさらに高められるよう精進して
まいりますので、今後とも変わらぬご支援をいた
しますようよろしくお願い申し上げます。

ずらり多彩な模擬店が好評 サンヒルズ紫豊館で地域あげて夏まつり

サンヒルズ紫豊館(福知山市)は7月28日、多彩な模
擬店をそろえた上豊富地区あげての夏祭りを開き
ました。同地区自治会や多くのボランティアの全面的
な協力により実現したものです。

冷やしきゅう
り、地域ボラン
ティアの窯焼
きピザも好評
でした。

模擬店は手打ち蕎麦やお好み焼きをはじめ、林さ
ん家のピザ、きゅうり一本漬け、肉巻きおにぎり、フライ
ドポテト、チョコバナナ、飲み物はもとよりひも引き、
的当てまで、それぞれ大盛況。特に、全国の高校生が
オリジナルレシピを競う料理コンテスト、第7回「ご当
地!絶品うまいもん甲子園」で昨年度優勝した福知

余興の和太
鼓ユニット「ひ
とつ」、バンドグ
ループ「上豊
オールスター
ズ」も加わり
たいへんな盛り
上がり。ファイ
ナーレは打ち
上げ花火が会
場を包みまし
た。



せつつ桜苑講座「音楽にふれあう科」の受講生

同施設のご入居者訪ね歌や紙芝居を披露

摂津市老人福祉センターせつつ桜苑(摂津市受託事業)で開講されている「摂津市いき
いきカレッジ(老人大学)せつつ桜苑講座 音楽にふれあう科」の受講生12名(60歳以上)が
7月19日、せつつ桜苑のご入居者を訪問され、音楽発表会が行われました。

「音楽にふれあう科」は受講生が懐かしい歌をうたったり、身体を動かしたりリズムを感じたり、
音楽を通して脳を活性化し元気に過ごしてもらおうのが目的です。当日は「青い山脈」や「りんご
の歌」などを歌い、紙芝居「桃太郎」では、家来役(犬・猿・キジ)を受講生が元気に演じられ、
ご入居者から「よく練習されたんでしょね」といった声があがり大変喜ばれていました。

老人福祉センターは、高齢者の
生きがいづくりや社会参加を
支援する地域の身近な施設として
の役割があり、集団リハビリや
健康相談、レクリエーションや趣
味にあわせた教養講座(陶芸・
編み物・絵画・短歌など)を開
催、入浴設備も備えています。



認知症の方への音楽療法

きりんデイサービスセンター(認知症対応
型)に9月2、3の両日、大阪人間科学大
学人間科学部の准教授秦康宏氏がゼミ学
生(1年生、2日間計20名)を引率して来所
され、「音楽療法」を実践体験されました。
「音楽療法」とは、音楽を聴いたり歌った
りすることで、脳の活性化や心身に安定を
もたらすリハビリテーションの一種。認知症の
方が周囲の方と同じリズムでメロディを口
ずさむうちに、心の扉を開きかけにな
ります。

同センターでは日頃から講
師を招き、童謡(どんぐりころころ)を歌つ
たり、楽器(タンバリン、リングベル)を鳴ら
したり音楽を通して脳の活性を促してい
ます。
学生さんたちは、認知症の方と積極的に
関わりあう姿勢も見られ、「認知症のイ
メージが変わりました」「スタッフの方も明
るくて楽しかった」といった感想が聞かれま
した。



「サバ缶」のお手軽メニューはいかが 「ふれあい喫茶」で高齢者に伝授

高槻けやきの郷地域福祉推進会議メンバー

高槻けやきの郷の地域
福祉推進会議のメンバーは
8月28日、渡邊賢人管理栄
養士も同行して竹の内地区
福祉委員会の「ふれあい喫
茶(第七東和苑自治会集
会所)」(毎月第2・第4水
曜、13時~16時)を訪問し、
健康に関わる「食」をテーマ

に「サバ缶」を用いたお手軽メニューの紹介や栄養バランスについて
解説しました。

当日は約15名の地域の高齢者のみなさんが集まっておられ「さすが
栄養の専門家!わかりやすいわー」といった声があがり拍手が湧き起
りました。日常的な話題を通じて介護に関する悩みなどもお聞きするの
がねらいで、地道な活動ですが、これからも継続していく方針です。

地区福祉委員会は小学校区などをエリアに地域の福祉ニーズを掘
り起こし住民自らが知恵を出し合い活動する組織で「ふれあい喫茶」
はお茶を楽しみながら隣り合わせた人と情報交換や悩みを共有できる
仲間づくりの場です。

姉妹園の5歳児同士が「なかよし会」



認定こども園 正雀愛育園 27名

認定こども園 一津屋愛育園 28名



姉妹園の認定こども園正雀愛育園の5歳児27名と認定こども園一津屋愛育園の5歳児28名が合同で「なかよし会」を行い、同年齢の友だちと交流を図りました。

子どもたちはお互いに気を遣う様子でしたが、一緒に歌ったり、ゲーム「猛獣狩りに行こうよ」(最後に出てきた動物の名前と同じ

文字数の人数に集まる)や「じゃんけん列車」(じゃんけんに負けた人が勝った人の後ろに繋がる)に挑戦しているうちに大はしゃぎ、すっかり打ち解ける光景も。

給食も一緒、カレーライスを食べ「どんな遊びを園でしているの?」とか「どこの小学校に行くの?」など会話を楽しみ、お互いに関わり合う積極性も見られました。



遠足のはずが災害時の「引き渡し訓練」に

くろみ愛育園では9月21日、災害時を想定して保護者全員の迎えを待つ「引き渡し訓練」を行いました。「園児引き渡しリスト」に保護者の氏名を記入、災害発生時の子どもの引き渡し(緊急のお迎え)手順について確認しました。

じつはこの日は生駒山遊園地へ「親子遠足」に出かける予定でしたが、生駒山頂標高642mの気温が冷え込む予報から安全

全園児の祖父母招き「敬老の集い」



第二愛育園では9月12日、全園児のおじいちゃん、おばあちゃん(祖父母)を招いて「敬老の集い」が行われました。これまでは幼児クラス対象の行事でしたが、家族との関わりを深めてもらうことを目的に、乳児クラスを含め全園児対象としました。

一部は各クラスで、ふれあい遊びや歌を披露。二部では、4・5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんを対象に、同園隣接のきりん夜間愛育園1Fホールで、5歳児のハーモニカ演奏と歌を披露しました。おじいちゃん、おばあちゃんは子どもたちの花道を通られ「上手だったね」と言葉をかけたり握手、孫との世代間交流を楽しまれて退出されました。



頼もしい援軍 学生ボランティア

東生野愛育園

東生野愛育園では近隣の姉妹園(くろみ愛育園、くろみ小規模保育園)の園児、前年度卒園児、地域の未就学児の親子を招待して恒例の「夏まつり」(7月25日)を開きましたが、今年は保育士養成校の学生さん4名がボランティアで参加され、頼りになる援軍となりました。

会場にはシャボン玉、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、輪投げゲーム、ボールプール、5歳児が手作りをした「迷路」など各コーナーが人気を博しました。学生ボランティアさんは各コーナーに分かれ、保

「キレイ!」の大歓声 地域の親子招き「お月見会」

認定こども園一津屋愛育園では9月11日、地域の親子を遊戯室に招き「小さなお月見会」が開かれました。子育て支援事業の一環です。

子育て支援担当者が「お月見の由来、お月見だんご、ブドウなどのお供え物」について解説したあと「ハッピーバースデーおつきさま」のブラックパネルシアターを行いました。ブラックライトに映えるおつきさまに、参加者から「キレイ!」と歓声があがりました。

親子でウサギやタヌキのお面作り。目や口を描いて仕上げたお面を被り、子どもたちはウサギになりきって遊戯室を走り回る楽しい光景が見られました。



認定こども園 一津屋愛育園の子育て支援

岩戸ホーム

月間利用者延べ250名と大盛況 地域交流型の本格トレーニングセンター開設

岩戸ホーム(福知山市)は、昨年リニューアルオープンした施設の一角に今年初め「岩戸ホームトレーニングセンター」を開設しました。同施設が所在する小学校区に在在され、事前の体験説明会に参加された方なら誰でも利用できる「地域交流型トレーニングセンター」です。

同トレーニングセンターは年中無休で9時から18時まで。ご利用者は9月現在、登録96名、月間利用延べ人数約250名にのぼる盛況ぶりです。



「いつまでも健康で元気に過ごしたい」という地域のみなさんからの要望に応えたもので、センターにはウエイトマシン6台、バイクマシン、セラミックボール足浴器、骨量や筋肉量がわかる体組成計も利用できる。

高齢者の緊急時安否確認の「かぎ預かり」

吹田竜ヶ池ホーム

吹田市社会福祉協議会と協定書

吹田竜ヶ池ホームは8月8日、高齢者の緊急時安否確認「かぎ預かり」事業の実施に係る協定書を吹田市社会福祉協議会と締結しました。地区福祉委員会が実施する小地域ネットワーク活動であるひとり暮らし高齢者の見守り声かけ活動の一環で、ご本人同意のもとご自宅の鍵をお預かりするものです。地域の高齢者の不安の軽減にも繋がるかと期待されます。

同施設の佐藤裕之施設長が、この事業に先駆的に取り組んでいる寝屋川市社会福祉協議会の事例を吹田市社会福祉協議会から説明を受けこれに賛同、同施設の千一地区連自治会(荒木勇夫会長)からも協力を得られることになったため、施設内に金庫を設置、申請のあった方のご自宅の鍵を保管します。万一、安否が疑われる場合、身分証を携帯した地区福祉委員と警察官などが同施設で鍵を受け取り、在宅(安否)確認を行います。

高齢者(独居含む)が増える人口推計を背景に、施設が介護サービスなど専門性を生かせるほか、地区福祉員との連携を深めることができるなど、地域貢献の役割としても意義があります。同事業を通して、誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指したいと願っています。

河川の氾濫に備えよう!

地域と連携し災害時の避難訓練



記録的な大雨をともなう台風19号(10月12~13日)の影響で、関東地方中心に河川の氾濫が相次ぎ甚大な被害をもたらしましたが、認定こども園一津屋愛育園(摂津市)では、河川氾濫を想定した避難訓練を行いました(8月27日)。

同園は淀川(一級河川)から約200メートル北にあり、氾濫した場合の洪水浸水は2.0~5.0m未満と想定されています。このため、同園が所在する自治会では冊子「水害犠牲者ゼロのための自主避難ルール」を作成。緊急避難所マップや避難するタイミングなどが示され、安全に避難できる内容になっており、地域の災害に対する意識も高まっています。

ウズベキスタンと文化、スポーツ、人的交流にひと役



ライフステージ 舞夢(舞鶴市)の上野由香子施設長は舞鶴市の要請を受け「舞鶴市民ウズベキスタン視察訪問団」の一員として8月6日から8日間の日程でウズベキスタン共和国を訪問しました。同視察訪問団は、舞鶴市が東京2020オリンピックは、舞鶴市が東京2020オリンピックで同国のレスリングと柔道代表選手団のホストタウンとして受け入れることになったため、これを機に同市とウズベキスタンとの文化・スポーツ・人的交流を深めるため、多々見良三

先輩からのメッセージ



経験を積み指導的立場に立つとき高い意欲が湧く
介護はクリエイティブな仕事、やりがい見出せます

目片 真都さん

2009年度入社
せつつ桜苑（生活相談員）

高齢
中堅

— 新人スタッフとの違いはどのようなことがありますか —

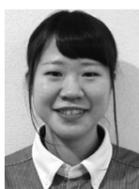
新人の時は職場の環境に慣れることや目の前の仕事を覚えることで精一杯でしたが、経験を重ね、少しずつ指導的な立場（役職）や責任のある仕事を任せてもらえるようになると、高い意欲を持って働くことができるようになります。

— 将来のキャリアイメージを教えてください —

生活相談員（入所から生活まで相談援助・指導業務を行う専任の職員）になって4年目、まだまだ学ぶことが多いですが、より専門性の向上やマネジメント能力を磨きたいです。職場の多職種のスタッフと連携しステップアップしてチーム全体で成長していきたいと考えています。

— 学生の皆さんにメッセージを —

一般的に介護の仕事はとてつもないというイメージがありますが、ご利用者の生活をその人らしく支えるという意味で“クリエイティブな仕事”で、やりがいを見出せます。特に、優しい笑顔や感謝の言葉をもらった時、何にも代えがたい感動が待っています。人生の大先輩でもあるご利用者からは常に学びがあり、介護のプロとしても幸せを実感できます。ぜひ成光苑と一緒に働きましょう。



ご利用者の笑顔に「介護の仕事についてよかった！」
安心して働き続けられるチューター制度

南 由紀さん

2019年度入社
ライフ・ステージ 舞夢

高齢
若手

— 働くなかで感じるやりがいを教えてください —

入社から半年、分からないことも多いですが、ご利用者の笑顔やケア後の「ありがとう」の言葉にとてもやりがいを感じ「介護の仕事についてよかった。今日も頑張ろう!」と強く思います。ご利用者から戦争体験や厳しい暮らしをされてきたことをお聞きし、胸の詰まる思いとともに、自分が恵まれた時代・環境のなかで生活できることへのありがたさを実感しています。これまで高齢者の方の生きがいや人生観を知る機会がなかったので、ご利用者とのコミュニケーションを通して、日々学んでいきたいと思っています。

— 学生の皆さんにメッセージを —

「介護は大変な仕事」というイメージがあるかもしれませんが、ご利用者とのさりげない会話や表情から、高齢者の心理や新たな一面に気づくなど、この仕事ならではのやりがいも多くあります。社会人としても初めは不安や仕事上、覚えなければならぬこともありますが、成光苑では専属の先輩スタッフが教育係として指導（チューター制度）もしていただきます。安心して長く仕事を続けられると思います。一緒に頑張りましょう。



子どもたちの達成感を共に喜び合う魅力
「ここで働きたい!」と感じる場所を焦らず探そう

仲 純子さん

2019年度入社
認定こども園一津屋愛育園

保育
若手

— 働くなかで感じるやりがいを教えてください —

現在、私は3歳児の担任です。子どもたちが逆上がりや前回りに挑戦し、保育者の補助なしに成功した瞬間、苦手な食べ物（給食献立）に「食べられへん」と困っていた子どもが、言葉掛けなどで完食した時「センセー!!」と満面の笑みで駆け寄ってきてくれます。日々の保育で子どもたちが成長していく姿を傍らで共に喜び合えることにやりがいや魅力をとても感じています。そんな子どもたちの一人ひとりの笑顔や感動が私の原動力になっています。

— 学生の皆さんにメッセージを —

就職先を決めようと思った時、どんな保育所や幼稚園がよいか、何を重視すればよいかなど、悩むことが多いと思います。学業も忙しいでしょうが、頑張っって時間をつくり、いろいろな就職セミナーで説明を聞いたり、園の見学を申し込むなど「自分がここにいきたい!」と感じる場所（就職先）を焦らずに探してみてください。



出産、子育てを経験、「育児と仕事」のモデルに
子どもの成長をサポート、刺激的でやりがいに満ちた日々

尾坂 絵里さん

2005年度入社
第二愛育園

保育
中堅

— 新人スタッフとの違いはどのようなことがありますか —

担任をしているクラス（2歳児）の仕事だけでなく、園全体の行事・イベントや勉強会などにも関わっています。新人スタッフへの育成指導も行っています。園異動もありますが、保育者としての成長のためと思います。

— 将来のキャリアイメージを教えてください —

結婚～出産と産前産後・育児休暇を2回取得し、子ども2人を育てながらの仕事です。育児との両立は楽な時ばかりではありませんが、今日まで退職せずに続けられたのは「尾坂先生!」と呼んでくれる園児の存在や「（子どもの）体調どう?早く帰ってあげて」と気遣ってくださる園長や保育スタッフの理解のお陰と感謝。「子育てのサポートも保育士」と、身をもって経験していますので、若い先生が「私でもやっていけそう（育児と仕事の両立）」と思えるモデルになっていきたいです。

— 学生の皆さんにメッセージを —

「保育士になってよかった!」と感じられる瞬間はたくさんあります。私の場合、出産～育児経験後“保育の視点”も広がり、保護者の気持ちに寄り添えるようになりました。仕事を長く続けることで見えてくることもあります。毎日同じことが起こらない刺激に溢れ、未来を担う子どもたちの成長をサポートすることは日々やりがいに満ちています。

あなたが広げる福祉の可能性 就活応援セミナー

介護の魅力発信 せつつ桜苑のケアワーカー

せつつ桜苑の三宅輝政、大原彩夏両ケアワーカーは7月20日、インテックスOSAKAで開催された「福祉の就職総合フェア2019 inOSAKA（大阪府主催）の「若手職員本音トーク」に参加。大阪福祉人材支援センターの要請で、就職活動（求職）中の来場者対象に「就活応援セミナー ～人がめっちゃ好き!そんなあなたが広げる福祉の可能性～」をテーマにしたコーナーでインタビュー出演しました。

多くの来場者で賑わうステージ袖で両ケアワーカーは緊張気味でしたが、本番では介護の仕事の魅力や選んだきっかけについて「人に喜ばれる仕事をしたいと思い福祉系に進学しました。夜勤明けなどしんどいこともありますが、名前を呼んでもらい、励まされる時はありがたいです。介護職を続け、後輩の育成にも携わりたいです」（三宅ケアワーカー）。また、未来の自分の姿について「先輩から“元気?ガンバってるね”と自然体で気遣ってもらえることが安心と自信にも繋がっています」（大原ケアワーカー）など、しっかりインタビューに応じていました。

「自分の思いを精一杯お話ししました」と三宅ケアワーカー、「緊張から解放され急にお腹がすいてきました」と好対照の大原ケアワーカー。その後の就職説明会では成光苑出展ブースに立ち寄られた来場者から「介護現場の貴重な経験談が参考になった」「職場の良い雰囲気が伝わってきた」などの声寄せられました。同行の松田有里生活相談員は「ふたりともたいへん成長してくれました。自慢の後輩!」とさっぱり。介護の魅力発信に若いスタッフのパワーが欠かせないようです。



「職場の雰囲気の良さが伝わった」

来場者からこんな声が

「介護現場の体験談が参考になった」

将来を担う 経営的視点を育てる 特別企画合同研修

高齢者部門（京都エリア）の幹部、リーダー層対象



高齢者部門京都エリア（岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館、ライフ・ステージ舞夢）の中堅およびリーダー層スタッフ12名を対象に、成光苑特別企画合同研修が7月3、4の両日、エキシブ琵琶湖（滋賀・米原市）で行われ、南猛文成光苑事務局長や同エリア施設長が講師陣を務めました。研修テーマとなったのは「社会福祉法で求められる社会福祉法人を取り巻く状況とその役割のポイント」（南事務局長）▽「事業の目標と数値をなぜめざさなくてはならないのか?予算と決算を知っていますか」（サンヒルズ紫豊館 岩吹泰志施設長）▽「これからの成光苑を担うリーダーに求めること」（岩戸ホーム 藤原義章施設長）。

受講者からは「日々の業務の意義を再確認し、幅広い視野と自身の役割や知識も持ち合わせていなければならないことを学びました」「チームとしての人材の育成に努め、スキルアップしていく将来の姿を描くことができました」など頼もしい声がかれ、将来を担う経営的視点を育てるきっかけになったと思われま

部下指導研修

幹部スタッフ29名が参加

魅力ある園づくりにチームカアアップを



保育部門では8月31日、愛育会館で「職場の一体感の醸成」をテーマに部下指導研修を行い、各園の園長、主任・主幹をはじめ幹部スタッフ29名が参加しました。講師はキャリアコンサルタントの番公二郎氏。

研修の冒頭、高岡國土理事長が「幹部がまず、組織の目標を立てて共有すること。一致団結・信頼関係を大切にし、誇りをもって働ける職場に!」と参加者を激励されました。

グループワークでは、受講者それぞれが20歳代の頃の保育士として、様々な年代、勤務形態のスタッフとどのようにコミュニケーションを図ってきたか、初心を振り返り、チームワークをどのように築き、どのようなアプローチが必要かなど、各園の現状を踏まえて意見交換が行われました。

「しんどかったこと」がたくさんあったけど、それが「頑張る」や「やりがい」につながる。「先輩に丁寧に教えてもらい、認められ褒められ、先輩がいたからこそ頑張れた。そんなリーダーになりたい」など、若い頃の記憶が蘇り盛り上がったようです。この研修で学んだことを持ち帰り、魅力ある園作りのためチームカアアップに生かしてほしいものです。

乳・幼児担当別リズム研修

基本の動きの積み重ねが大切な幼児

保育部門の乳児担当、幼児担当の担当別リズム研修が春本繁子成光苑理事を講師に行われました。

乳児担当研修（6月15日、きりん夜間愛育園ランチルーム）には37名が参加。愛育園の保育の柱となる「リズム」は①強制ではなく、保育者や友だちが楽しんでる姿を見せるなど、二人組や競争を交え、やりたいと思える楽しい雰囲気を作

ること②ピアノの弾き方や音を聞いて動く重要性③同じ動きでも年齢によって変化させることの大切さ一を実践を通して講義されました。

幼児担当研修（9月7日、愛育会館ホール）には35名が参加。リズムの基本の動きから、さらに高度な指導が行われました。ポイントは、基本の動きを日々繰り返すうち徐々に培われるということ、積み重ねの大切さを教



えられました。高度な動きは保育者でもいきなりとなると難しく「やってみよう」という気持ちを作る取り組みが求められます。「継続は力なり」は日々の保育現場にも通じることがわかります。

乳児には「やりたい!」の雰囲気づくり